



## 一歩 一歩

校長 山田 勇一郎

清々しい五月晴れが快く、若葉が薫る季節を迎えました。子供たちも若葉に勝るとも劣らず生き生きとした毎日を送っています。

先日、6年生が本校伝統行事の一つである筍掘りを行いました。シャベルとスコップで掘りますが、筍はとても根が固く、一つの筍を掘るのに時間をかけ、額に汗して苦勞しながら掘っていました。6年生の子供たちみんなが「よしっ、あともう少し。」と笑顔で励まし合いながら、夢中になって筍を掘る姿に心からの喜びを感じました。それと同時に、今年度も子供たちがこの筍の皮を使って自らの手で作る卒業証書を手にするまでの限りないチャレンジを力いっぱい応援していきたいという思いをあらためて強く心に抱きました。

新年度のスタートにあたって多くの教室には、それぞれの学年目標や子供たち一人一人の目標が掲示されています。たとえば学年目標は「誰にでもやさしく何事も本気でがんばる最高の6年生」、「学習・運動の新しいことや苦手なことなどもすすんで挑戦しよう（3年生）」、個人目標では「先生や上級生や下級生に太陽のあいさつをしたいです」「テストで100点をいっぱい取りたいので毎日、家や学校で練習する」などそれぞれに希望と意欲に満ちた志が掲げてあります。子供たちがそれぞれの目標に向かって一歩一歩前進していくような一年にしたいと思います。

「一歩一歩」で思い出す人に登山家・田部井淳子さんがいます。田部井さんは、女性として世界で初めてエベレスト登頂に成功した方です。東日本大震災のあった2011年にがんを患い「余命3か月」の診断を受けましたが、がんと闘病しながら、登山を続けました。2012年からは東日本大震災で被災した高校生を元気づけるため、希望者90名程と一緒に富士山登山を始めました。それを4年間続けて、田部井さんはお亡くなりになりましたが、亡くなる3か月程前にも、入院中にもかかわらず富士山に登りました。その時、くじけそうになっていた高校生に言った言葉が「苦しくても足を引きずりながらの一歩一歩でも、足を前に運び続ければ必ず頂上にたどり着ける」というものでした。この田部井さんの言葉から、一歩一歩を続けることや「何があってもやりぬく」という固い意志をもつことの大切さを学びとることができます。日々の生活の中で、子供たちがそれぞれの目標に向かって歩む途中には、様々な壁や困難にぶつかることと思います。田部井さんのように「一歩一歩 前へ」を大切にして、困難に負けず逃げない強い心をもった子供たちを育てていきたいと思ひます。